

広島平和フィールドワークを実施しました！

8月6日（日）～8日（火）、高2国際会議実行委員の梶村瑛さんと光山あやめさんが、広島で平和フィールドワークを実施しました。

6日（日）は、本校の協働校である広島市立舟入高等学校の演劇部生徒による、平和・原爆をテーマとした演劇を鑑賞した後、被爆者の実話に基づいた絵本『さいごのあさごはん』の英語朗読を聴き見識を高めました。

7日（月）は、同じく本校協働校の広島女学院高等学校主催の「広島 PeaceForum2023」に参加しました。本年度は核と環境に関する基調講演を聴いた後、国内外の高校生と同テーマに関するワークショップを行い、会場全体へプレゼンテーションを行う構成でした。2人のワークショップでのテーマは「核燃料について」。梶村さんは日本語の部、光山さんは英語の部に参加し、議論を通して、リーダーシップと協働性を高めることができました。

8日（火）は、協働校である広島市立舟入高等学校の生徒と、広島原爆遺構をめぐるフィールドワークを行いました。広島平和記念資料館や舟入高校の前身である広島市立高等女学校の原爆慰霊碑を訪れ、舟入高校内の原爆に関する資料を見学しました。

広島での3日間のフィールドワークを通して、2人は学びを深め、平和への想いを新たにしました。生徒の感想です。

「広島PeaceForumへの参加を通して、他県の人との平和への意識のギャップを感じました。長崎、広島で生まれ育った人は定期的に戦争を知る機会があるので、知識があるように感じましたが、その他の県の人には知る機会が少ないという意見があったので、今まで平和教育を受けてきた私達が伝えていかなければならないと感じました。そして自分の土地で起こった事だけでなく、他の国や地域で過去に起こった戦争や、今起きている紛争などについてももっと知っていくべきだと思いました。」（高2-3 梶村 瑛）

「同年代の広島の人と直接会話をすることでより知識を深めることができたフィールドワークだったと思います。1日目の平和に関する劇の参観では紛争と原爆の違いについて高校生の視点から考えることができました。広島PeaceForumでは核燃料と環境について広島や広島以外の高校生とディスカッションをしました。『環境』というテーマはこれまでの私たちの核兵器廃絶へのアプローチとは違ってとても新鮮な気持ちでディスカッションできたとし、自分の視野を更に広げることができました。IAEA（国際原子力機関）では原子力発電を容認している側面を踏まえ、核燃料と環境というテーマはこれからの国際会議運営の指針としても大事な視点になるのではないかと思います。ここまで詳しく核について協議する機会は今まで無かったので、本当に貴重な経験ができたと思います。また、長崎に生まれた高校生として、原爆の知識は一般常識として身につける必要があると感じました。」（高2-7 光山 あやめ）

生徒たちは大きく成長を果たせたようです。



↑ Peace Forumのワークショップの様子



↑ 舟入高校の生徒と広島平和記念資料館を見学